



1 課題

道路や水路の除草、防草対策、害獣侵入防止柵の維持の大半は地域住民が担っている。しかし、高齢化や過疎化により、継続的な維持管理が難しい地域が増えており、維持管理方法の簡素化が求められている。また、近年始動した広島中央エコパークから排出される溶融スラグの活用促進も注目を集めている。

2 概要

広島中央エコパークから排出される溶融スラグを用いた防草対策用モルタルの配合と通電性を検討する。

大学 小川 由布子
広島大学
大学院先進理工系科学研究科 助教



市担当課 ×

建設部維持課
産業部農林水産課

関係機関 ×

広島中央環境衛生組合
ひろしま農業協同組合
日鉄エンジニアリング株式会社



所要の強度・施工性を確保した
防草モルタルの配合を検討



防草モルタルの
通電性を検討



⇒強度・施工性を確保した防草用モルタルを
誰でも作製可能に！

▲研究イメージ

3 研究成果 データ取得・分析

モルタルの含水状態をある程度確保することにより、通電性を確保することができることが明らかとなった。含水状態を保持する手法の検討への展開が考えられる。所要の強度が確保できる配合を選定する。

※プロジェクト自体は令和5年度完了であるが、配合割合が確定しておらず、5月末時点で配合割合を検証していただいている。

4 今後の展望・現状 事業実施に向け調整中

地域が行う道路等の自主的な維持活動の支援策として、エコパークで発生する溶融スラグを資材として支給するべく施策を検討中である。また、農地の有害獣進入防止対策の電気柵等の設置地面の防草対策として、溶融スラグ活用の可能性についても検討中である。